

嗅覚刺激による想起経験が 高齢者の認知機能および精神的健康に及ぼす影響に関する研究

Influences of Autobiographical Memory Cued by Odor on
Cognitive Functions and Well-being for Elderly

山本 晃輔 (YAMAMOTO Kohsuke)

超高齢社会への移行から、増加する高齢者における認知機能および精神的健康の低下が社会問題となっている。本研究組織では、これまで報告されてきた嗅覚刺激によって記憶が促進される認知モデルをさらに発展させ、嗅覚刺激による過去および未来事象の想起が高齢者の認知機能、精神的健康を改善する機序を解明し、それらの知見を高齢者の支援プログラムへと高めていくことが目的である。

今年度は大別して3件の研究を行った。研究1では、自伝的記憶の特性をより詳細に測定することができるAMCQ(Autobiographical Memory Characteristics Questionnaire)の日本語版を作成し、その信頼性および妥当性を検討するための実験、調査を行った。データ解析の結果、AMCQが6因子構造からなる可能性が示唆された。研究2では、嗅覚刺激によって想起される自伝的記憶の諸特性と主観的幸福感の関係性についてデータ解析を行った。その結果、弱いながらも統計的に有意な相関関係が確認され、高齢者では事後回想因子、鮮明度因子、未来思考因子などの記憶特性が高まるほど、主観的幸福感が高くなる可能性が示唆された。これらの知見は回想法研究への応用が期待される。研究3では、当該分野における認知症患者を対象とした内外の研究展望を行い、論文化した。関連する研究発表も含め、今年度の学会発表件数は計6件であり、学術論文は計7編が審査の結果、採択された。

【主な研究成果】

山本晃輔 (2021) 嗅覚刺激によって想起される自伝的記憶に関する心理学的研究—認知症高齢者への
応用展開を目指して— 香料, 29-34

山本晃輔 (2020) 高齢者の精神的健康と嗅覚刺激によって想起される自伝的記憶との関連性 アグリ
バイオ, 4, 34-36.

山本晃輔・小林剛史・小早川達 (2020) 日本におけるなつかしい匂いとは：ノスタルジアを喚起させ
る匂いに関する調査的研究 *Aroma Research*, 81, 44-47.

山本晃輔・猪股健太郎・綾部早穂 (2020) 嗅覚イメージ鮮明度質問紙(VOIQ)日本語版を用いた近年の
研究展望 *Aroma Research*, 82, 123-127.

Yamamoto, K. (2020) Psychological Research of the Relationship between Olfactory and
Autobiographical Memory. *The 54th Annual Meeting of the Japanese Association for the study
of Taste and Smell*.

Gotow, N., Yamamoto, K., Kobayashi, T., & Kobayakawa, T. (2020). Screening for Age-Related
Olfactory Decline Using a Card-Type Odor Identification Test Designed for Use with Japanese
People. *Chemosensory Perception*, <https://doi.org/10.1007/s12078-020-09279-8>.